第34回日本臨床整形外科学会学術集会 トキめき学会・新潟

共催セミナー 9

ガイドラインを主軸においた腰痛診療の実際と、腰痛研究の新たな標準

学術集会ホームページ
https://shinsen-mc.co.jp/jcoa34/

2021年10月16日(土) 12:50~14:00

Live 配信

座長
しんとう整形外科・リウマチクリニック
院長
神藤 佳孝 先生

演者
千葉大学フロンティア医工学センター　教授
千葉大学大学院医学研究院整形外科学
折田 純久 先生

「腰痛診療ガイドライン2019改訂第2版」はシステマティックレビューによる客観的なエビデンス解析も織り交ぜ、本邦における腰痛診療の実情に合致したガイドラインである。

薬物療法に関するClinical Questionは対象病態を急性腰痛、慢性腰痛、さらに坐骨神経痛とし、現在の日常診療で汎用されるものの初版では掲載がかなわなかったCaチャネルα2δリガンドやセロトニン・ノルアドレナリン再取り込み阻害薬などの新規薬剤を含む各種薬剤について、治療効果のみならず副作用の発生など「益と害のバランス」を含む文献的エビデンスをもとに本邦での実地臨床での実情を総合的に勘案、委員の投票により70%以上の合意が得られた場合に推奨薬として採択するなど一貫して公平性と客観性が重視されている。

さらに、慢性腰痛に対する運動療法に対して初版・改訂版のいずれにおいても有効性が示された。運動療法は、昨今の超高齢社会に突入した本邦の現状も踏まえると薬物療法に並び重要な項目である。我々の研究では腰痛患者の身体的特性を患者の体幹筋量をパラメータとして腰痛やその関連指標との相関を解析している。さらには現状の臨床で腰痛患者の状態を把握するために行われている患者立脚型の評価スコアについて、その評価の客観性の担保は困難であり、近年普及が進むウエアラブル端末による客観的生活データの解析等が有用であることが報告されるようになった。このように今後の腰痛研究はより客観性を重視したうえで多方面から広く収集した集積型データの解析が重要となってくる。

本セミナーではガイドライン改訂版の知見も踏まえながら、慢性腰痛に対する薬物療法について神経障害性疼痛の関与など痛みの基礎知識も踏まえて概説しつつ、我々の行ってきた体幹筋量と腰痛患者の特性の関連、およびウエアラブル端末による客観的生活データの解析、さらにはフィットネスゲームを用いた慢性腰痛改善の試み等についても解説する。

認定単位
日本整形外科学会 専門医資格継続単位(N)脊椎脊髄病(SS) 1単位
必須分野：[1] 整形外科基礎科学または [7] 脊椎・脊髄疾患
「単位の申込方法詳細は学術集会ホームページをご覧ください。」

共催　第34回日本臨床整形外科学会学術集会 トキめき学会・新潟/日本臓器製薬

日本臓器製薬